



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年5月1日

5月号・第172号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



自然観察会(奈良公園)

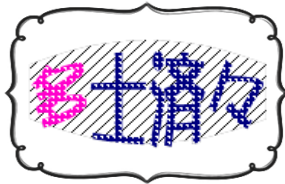
Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多士済々	1	やさしい病虫害講座	11
Monthly Repo.ならやま	2	俳句百景	12
里山の今	3・4・5	癒しの散歩道 & ならやま茶論	13
新入会員歓迎会・報告	6	ギャラリーならやま	14
3月例研(歴文)・報告	7	仲間入りしました	15
4月例研・報告	8	ならやまプロジェクト	16
4月自然教室・報告	9	行事案内 part1・part2・奈良学クイズ	17・18
わいわい桜祭り報告・「鳥」シリーズ	10	幹事会報告・編集後記	19



控えめな才女

井戸八穂子 さん

顧問 川井 秀夫

八穂子さん。愛称ヤッホさん。平成生まれの女性には「子」の字が付くのは極めて少なくなり、「子」が付くと昭和生まれだと何かホッとしてしまう。

「八」は末広がり、「穂」は「秀」に通じ、豊かな優れたものを意味していると言われている。「名は体を表す」と格言があるが里山で会う皆さんは「能ある鷹は爪を隠す」才人が溢れていて心強く頼もしい気がしてならない。



ご出身は香川県 讃岐。瀬戸内に浮かぶ「讃岐広島」と言う島嶼^{とうしょ}で、小学一年まで過ごされた様です。この地は御影

石・サヌカイトなど鉱物資源が豊かとか。その後、父君のお仕事で東京・静岡と居を移され、終の棲家として奈良に45年とお聞きしました。

奈良の大学で社会学を修得され、長じて阿部顧問の里山再生の講演が縁となり、平成20年に入会（今までの最年少記録）され、同時進行の形でシニア大で自然学を学び、研究サークルの「鉱石クラブ」でも活躍された様です。

今、里山のエコファームの一員として草取り・収穫作業など農事に地道に活動され、編集チームの構成員としても助力願っております。

私の記憶を辿ると、入会直後の例会の帰路で弓場 厚次氏と西大寺駅の立ち飲み処で酒杯を交わした事があり、こちらが辟易するほどの飲みっぷり、舌を巻いた事がありました。「のらの

会」にも暫くお付き合い頂きましたが、ご家庭の事情で昨今は機会が無くなり残念に思っております。私の元気なうちにまた機会を得たいものです。

お話を伺うとご趣味も多彩で、ポルトガル刺繍はプロ並み、山野草の栽培、最近はフラダンスの猛特訓中だとか。当会の周年行事の場では是非お披露目願いたいものです。

龍の天井画を書いた、私の「隠れ古社寺」の記事を読み「私、辰年なんですよ」。庚申の猿の記事を見て、「今年生まれる孫が申年なんです」と。感性の豊かさを感じたものです。孫さんの安産を他事ながらお祈り致します。

辰年のヤッホさん。若いエネルギーを存分に、龍が翼を得る如く、当会の中核として頑張ってください。括目しております。



Monthly Repo. ならやま

八木 順一

3月24日(木) 活動 晴れ 71名+6名

恒例の新入会員歓迎会。すばらしい天候とおいしい料理で盛り上がる。沢山の料理も瞬間に無くなった。新入会員も健康で長く活動を続けて欲しいものだ。テントやトイレ周りの植樹や囲い作り作業もほぼ終了。サイトも美しくなっていく。各Gはこういった作業や歓迎会の準備等ででんてこ舞いだが、後片付けも加えて皆で生き生きと力をあわす姿に当会の将来が見える。また、上記の作業のほか、ハウス作りや春花の移植、そしてパトロール等と忙しい一日だった。また、昼食時には久しぶりに本会の「ならやまの歌」を全員で歌う。



3月31日(木) 活動 晴れ 58名+1名

27年度最後の活動。暑い日だった。サイトの桜も満開。各Gとも春の作業に佳境を迎える。里山Gはイベントの準備を中心に、エコGは夏野菜のポット移植に取り組む。また、景観Gはソバ畑の耕運準備の他、ビオ班的池のネット張り、花班の花の移植と大忙し。またパト班も2コース巡回に出る。サイトでは大量にたまっていたゴミもきれいに処理され、ならやまの観察路の案内地図も新たに作製される。その他、近大生が4名来訪。



4月8日(金) 臨時活動 曇り一時晴れ 32名

臨時活動日になったが、朝から全員で竹の子採り。沢山の収穫量になった。しいたけともども参加者にはうれしい活動日だった。また、昼には焼き竹の子を味わう。各Gは倒木処理や野菜の移植、そして来週から移るBC付近の草刈りと大忙し。また、池の整備や観察路巡回も忘れてはならない。その他、忘れ物をした、物をなくした、といった訴えをよく聞く。十分気をつけたい。



4月14日(木) 活動 晴れ 67名

西池の周りで、蛙の声が盛んに響き渡る。いよいよ暑い暑い季節を迎える。しかし、竹の子をはじめ野山の収穫物も豊富で、目も舌も十分楽しませてくれる。今日は、竹の子ご飯が供され、舌鼓を打つ。本当に有難いことである。感謝。

里山Gはイベントの準備、エコGは夏野菜の畝作りに、そして景観Gは竹の子採りや第5地区の草刈りを中心に汗を流す。また、ビオ班は水生生物調査、花班は山野草園の整備、そしてパト班はコース巡回の他、月一のミーティングを行う。打ち合わせでは、本日の段取りの他、新入会員の紹介や落とし物・忘れ物がなくなるように再度注意喚起した。近大の学生と先生来訪。



里山グループだより

阿部和生

「クリの木いろいろ」

第5地区にクリの木2本を、3月末に補植をしました。しっかりした苗木で数年のうちに実がなりそうと期待しています。

クリの木と人間の関わりは、古く縄文時代前期後半から縄文中期までおよそ1,500年続いたといわれる青森県三内丸山集落遺跡に、その証があります。直径1mを超えるクリの巨木を使った大型掘立柱建物（物見やぐら？）があり、その根元が発掘展示されていました。出土したクリの実の遺伝子解析から、その当時すでにクリの木が栽培されたものである事を明らかにしています。

クリは九州から北海道西南部まで全国に広く分布し、「湿った状態でも腐りにくい」クリ材の特性を生かした活用がなされてきました。堅果は食用に、樹皮や葉は薬用として、材は建築物や船、水回り板等と重宝されてきました。近代では全国に敷設された鉄道の「まくら木」として大量に伐採使用され、産業振興に寄与してきましたが、クリ林の本格的な再生がなされませんでした。1941年岡山で確認された外来種「クリタマバチ」の猛威にさらされたクリの木は、全国で壊滅的な打撃を受けてしまいました。かろうじて抵抗性を持つクリの木が生き残り、少しずつ復活しつつありますが十分とはいえません。

クリの実は、ドングリ類と違ってタンニンやサポニンという消化管に損傷を与える成分が少ないため、生で食べやすいのです。森に暮らす様々な動物達が、冬に備えて餌とする貴重な蛋白源でもあるのです。拡大したスギ・ヒノキ人工林の為、森の生物が食糧難に陥っているという別の一面もあるようです。広葉樹で材となる成木が、日本では少なくなっていました。クリに限らず落葉広葉樹の多様な森作りを夢見ようではありませんか。♪大きなクリの木の下で…♪の歌のようにクリの実を楽しみつつ順調な生育・多様な森作り楽しみにしています。



エコファームだより

平田和子

エコファームの男性による「育苗ハウス」のビニール覆い張替等の改修作業を2月末に終え、3月には新たに第二の「育苗ハウス」も完成させました。そのハウス内に所狭しと並んだ育苗ポット（きゅうり、なすび、カボチャ、ピーマン、トマト、唐辛子、パプリカ、レタス、空心菜）まだまだあります沢山の夏野菜。

去年は育苗ポットの水やりが不足し、枯らした苗もありました。その経験を活かし、2月末から「水やり当番表」を作成しました。エコファームの人達が毎日、枯らす事が無いようにと日々頑張っています。（私は家が遠いからと免除してもらっています。ごめんなさい！）

ハウス内の温度管理も大切です。暑い時には40度を超える時も、暑すぎず寒すぎずと気を使っています。でも残念ながら今年もきゅうりとゴーヤを枯らしてしまいました。もう一度種を蒔き再度挑戦中です。

畑に直接種を蒔いたえんどう豆。3月の中旬に支柱を立ててネットを張ったので「つる」達は巻きひげでつかまる所を自ら探しあてていたのですが、どんどん成長したのでネットに絡みつかない「つる」達もいます。それ達を私たち女性がやさしく、やさしく誘引します。力を入れすぎるとすぐにポキッと折れてしまいます。これはとても神経を使う作業です。

「つる」達は、おとなしくネットに収まってくれました。今年もきっと大きな実をつけてくれることでしょう！

毎年同じ様には行かず困ってしまうこともあるのですが、見事に収穫出来た野菜たちを見ると皆で「よう出来たなあ」「立派やなあ」と喜びあえる楽しみがあります。

皆様に美味しい野菜を提供できるように頑張っています。



景観グループだより

西谷 範子

びっくりぼんのハプニング

我々が今、作業をしているならやまの土地一帯は、かつて大型ごみの不法投棄が行われていた。復旧を始めた頃、これらのごみを取り除く作業は大変であった。

今もならやまのシンボルツリーの二本の大きな柿の木の下一帯には、絨毯やナイロン畳（スタイロ畳）が二重三重に敷き詰められ、長年にわたりその上に土がかぶさり、草が生い茂っている。

ここへ少しずつ花や木を植えて景観を良くしようとする作業は、まずこの絨毯や畳を取り除くことから始めねばならなかった。

芯に発泡スチロールを使い、合繊素材を縦横に縫ってある強いナイロン糸は、腐らず切れない。草刈機にもこの糸がからみつき入りにくいため、ほとんど手作業で少しづつ畳を切り取り糸を抜き、作地を広げることは大変である。それでも数年かかって広げた土地に、花を植え木を植えた。ここは主に山野草を中心にした花畑を作っている。

それは3月初め、突然の事であった。花畑を広げるべく3~4人でこの畳を切り取っていた時、他用で来ていたユンボに、S氏が畳をはがしてくれるよう頼んでくれた。糸などが絡んで無理ではないかと思守るうち、それは巨人のようにこともなく、いちめんの畳をひきはがしていった。ほんの数分の出来事で、重機の威力に驚き、今までの苦労は何だったのかとびっくりぼんであった。

2週間に亘りこの不燃ごみの袋詰めを行った。900のごみ袋75個が積み上げられた。まだ残ったままの所もあるが、開いた所へは花や木を植えて景観をよくしていきたいと思っている。



パトロール班だより

山本美智子

パトロールの一時

「ならやま自然観察路」の案内板がベースキャンプ入口左手に設置されました。

手づくりの木製カラー板の立派なものです。観察路の全コースを版木のごとく彫り色を塗りこんで、要所ごとのポイントポールの番号も表記され、緑色の木のイラストも愛らしく美術工芸の巧みな小島さんならではの作です。



この案内板をもとに各観察路に興を持ち四季折々の観察へ参加下さることをお待ちしております。さてこの時期の観察路のパトロールは、樹々の芽吹きや若葉や足下の草花の競演に目を奪われます。

今季も早くからショウジョウバカマが揃って咲き、名残りのヤブツバキの落花の紅色、コバノミツバツツジの目の覚める色、木々の中の白いヤマザクラの一群、サルトリイバラのさ緑色の花の可愛さ、タカノツメやコシアブラのもっこり膨らんだ美味しそうな若芽。若葉の陽射しを通し、みどりのシャワーの降りかかる観察路です。

不安定な急坂はロープが張られ、丸太の階段も倒木も会員の尽力で整備されて、山路は足裏に心地よく歩が進みます。声はすれども姿は見難いウグイスや、元気な鳥の囀りが絶え間なく聞こえてきます。足もとの枯葉の中から尻尾の長い細身の茶褐色のトカゲが顔を出し、しばし、あとさき一緒に歩いてくれました。

緑あふれる木々の中、カシナガ被害の枯死木も枝によっては若葉の出ているものもあり、生き延びてくれるのかと一喜一憂。思わず頑張れと声をかけたくなりました。山の中の新しい活動の源を全身に感じました。

ならやま虫だより

菊川年明

◆ホソミオツネントンボ

春に、ならやまの西池でよく見かける地肌が水色のイトトンボである。体長は35mm内外、名前についている「オツネン」とは「越年」のことで、成虫で越冬する数少ないトンボの1種である。また、「ホソミ」というのは「細身」のことで、近縁種でよく似たオツネントンボ（平成14年12月に本会のホームページで紹介）に比し細身ということである。

4月中頃から5月にかけて繁殖のために池にやって来るので、よく目につくようになる。繁殖期以外は水辺を離れ、樹林内又は林縁部に移動して棲息している。冬期は林の中で静止して過ごしていると思われるが、希にならやまの山中で、ふらふらと飛んでいる姿を見かけることもある。

ホソミオツネントンボの体色は、冬を越すまでは褐色（濃褐色の斑入り）であるが、春になると雌雄ともに水色（濃褐色の斑入り）になり、その水色はオスの方が鮮やかである。ちなみに、近縁のオツネントンボは、越冬前も後も褐色（濃褐色の斑入り）のままで、体色の変化はない。

ホソミオツネントンボとオツネントンボの両種は、春先まではどちらも全体的には褐色なので見分けにくい。差異はホソミに比べオツネンは体型がずんぐりしていることである。それに、閉じた翅を見たときに、4枚の翅のそれぞれの端の方の上部にある縁紋（黒っぽい部分）が1箇所になっている方がホソミ、2箇所に分かれている方がオツネンである。

（ホソミオツネントンボ 左♂ 右♀）



ならやま花だより

桜木晴代

「山路きて 何やらゆかし すみれ草」

3～5月のならやまの観察路を歩く

と、思わずこの句が思い浮かぶ光景に出会います。万葉集にも「春の野に 菫採みにと来し吾ぞ 野をなつかしみ 一夜寝にける（山部赤人）」と詠まれているスミレが慎ましく咲き、春の訪れを告げています。

シハイスミレ



コスミレ（観察路にて）



タチツボスミレ



ツボスミレ

（スミレの同定は難しいため推定名です。）

スミレ

- * 双子葉植物の一科
- * 19属のうち15属は木本・4属のみが草本
- * 世界に広く分布し400種以上
- * 日本にはスミレ属のみ50種
- * 初夏から秋には閉鎖花をつけ、受粉しなくても種子ができる。

スミレ科の木って「どんな木なんだろう？」と手元の図鑑で調べても見つからず、ネットで調べてみました。「スミレ科の木本」または「viola 属を含む世界の violaceae」で検索。ようやく見つけました。皆さまも試みてください。

スミレと聞いて思わずあの宝塚歌劇団の「すみれのはな一さく一ころー♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪」と口ずさんだ方もおられると思いますが、阪急電車の宝塚駅の発車時にはこのメロディーが流れます。

平成28年度新入会員歓迎会

ならやまベースキャンプにて開催

平成28年3月24日(木) 待ちに待った新入会員歓迎会が、「ならやまベースキャンプ」にて盛大に開催されました。

参加者は今年の新入会員歓迎会対象者12名の内、この日ご都合の付いた9名と既会員66名、更にお二人のお客様を加え、総勢77名と昨年を上回る人数となりました。

週間天気予報では降水確率40%と表示された時もあり、当日の天候が危ぶまれましたが、迎えて見れば清々しい春の日差しに恵まれ絶好の歓迎会日和、ならやまは明るい笑顔に包まれました。

担当のスタッフが朝から手際よく会場の設営、竈の準備が整うと、今度は毎年好評のバーベキュー、焼きそば、おでんの準備に取り掛かり、いやが上にも歓迎ムードが盛り上がります。



その向かい側では、今年初お目見えとなる当会自慢の蕎麦クラブ面々による手打ち蕎麦の実技披露。ならやま『そば処』の開店です。

準備万端整い、鈴木副会長による歓迎の挨拶のあと新入会員の方々9名が紹介され、懇親会の幕が切って落とされました。



おでん、バーベキュー、焼きそばの屋台の前では、お皿とお箸を両手に持った笑顔の列が出来上がりました。勿論、蕎麦クラブのメンバーが3クルーに分かれ、丹精込めて打ち上げた蕎麦も参加者全員に行き渡るよう、割り蕎麦で振る舞われました。

本日、お酒を期待された方にはお酒の代わりに甘酒が振る舞われ、ノンアルコールながら、雰囲気だけは味わっていただきました。



懇親会が終わってからも、折角の春の好日、新入会員の皆さまには「ならやま里山林」の春の自然を堪能していただこうと、パトロール班が先導、よく整備された散策路を巡り、森林浴も満喫していただきました。

新入会員の皆さまにとって、長くて短い一日となりましたが、当会を更に良く知っていただこうと最後には当会設立当時の古参メンバー、初代会長の川井顧問はじめベテラン会員との懇談を楽しんでいただきました。

最後には満足そうな皆さまの笑顔の中、予定時間をオーバーしてお開きとなりました。



池田さんご夫妻はじめ、今回、歓迎会を企画・演出していただきました担当メンバーの皆さんに、心より感謝致します。有難うございました。

(辻本 信一)

3月度月例研修会

「桜井南部の歴史街道を歩く」 中井 弘

3月29日(火)例研日和の快晴で、風に冷たさを感じるものの、日差しは汗ばむ陽気だ。参加者26名はJR桜井駅に集合する。まず川井代表からのご挨拶。次いで藤田会長から今日のコースの説明を受ける。多くの文献を読み込み、市販のガイドブックも足元に及ばない内容の資料を作成された。歩行距離は10km 足らずだが、訪問先は14件もあり充実した一日になりそうだ。

桜井南部は古代には「磐余」と呼ばれ、5世紀



前半から6世紀後半にかけて、履中・清寧・継体・用明天皇がこの地に宮を置いた。聖徳太子が青年

期20年間を過ごしたことでも有名な地である。まさに古代史の宝庫といえる地域である。

最初に「若桜神社」を訪れる。履中天皇が冬11月、この地で遊ばれた折に桜の花びらが酒杯に舞い落ちた。「十月桜」であろうか、10kmも西の掖上室山から飛来したという。葛城市にJR掖上駅があり地名が残っている。

「石寸山口神社」を経て聖徳太子が我が国初の国立演劇研究所を作った場所といわれる「土舞台」に登る。期待していた桜はまだ五分咲きだが、ヤマブキ、サンシュユの黄花が満開だ。

少し下った住宅地内にある「^{くさかはか}艸墓古墳」は7世紀築造の方墳で横穴式石室の中に大きな家形石棺があり、国の史跡に指定されている。

「上之宮遺跡」も住宅地の一角にある。聖徳太子が青年時代を過ごした上宮跡と言われるが、地元の豪族・阿倍氏の館とする説もある。

「メスリ山古墳」はこのあたり最大の前方後円墳で坂東さんの解説を聞く。記紀に記載はないが、王権にかかわる王の墓とされ、大量の武器が発掘されている。前方部には柿の木が多数植えられ私

有地化されているのはどういうことだろうか。

「安倍寺跡」は阿倍倉梯麻呂の建立。金堂や塔の基壇が復元され、史跡公園となっている。花が咲き乱れ、辻本さんの周囲には女性の花が付きまっている。

「安倍文殊院」は大化の改新の頃建立されたが、松永弾正の兵火で全焼、1666年に再建された。阿倍氏(安倍とも書く)の氏寺で日本三文殊のひとつ、知恵を授けてくれる「安部の文殊さん」と親しまれている。真赤なボケの花が満開で、呆け封じの酒が売られていた。ここで昼食。

「吉備池廃寺」では100m級の塔跡や金堂跡が発掘され、舒明天皇築造の百済大寺ではないかとされる。ここからは二上山が一望できる。吉備池堤防には大津皇子が謀反の罪を着せられ刑死される直前に詠んだ歌碑がある。「ももづたう磐余の池に鳴く鴨を 今日のみ見てや雲隠りなむ」さらに姉の大伯皇女が大津をしのんで詠った「現身の人なる我や明日よりは 二上山を弟背と吾が見む」。古川さんの朗々たる犬養節が春の野に流れる。二上山に眠る大津皇子に届いたであろうか。

「^{わかざくら}稚櫻神社」に登る。日本書紀に履中天皇は磐余稚櫻宮で即位されたとある。若桜神社と同じく冬桜の花びら伝承があるがいずれが本命だろうか・・・。

「磐余池跡」は長閑な田園の中にある。その所在地に諸説あるが、履中天皇の宮殿・稚櫻宮があり、用明天皇の池辺双槻宮もこの池の傍にあったことから、ここが磐余池とするのが通説となっている。

「御厨子神社」「御厨子観音」も池のほとりにあり、吉備真備が入唐留学し、無事帰国できたことを感謝して創建したとある。

椿が満開の万葉の森を抜けて香久山の東山麓を通り飛鳥に出る。

「大官大寺」は菜畑の中、藤原京跡の東の一角にある。文武天皇が持統の遺志を継いで建立したが完成直前に全焼している。発掘調査で「天皇の寺」に相応しい巨大な規模であったことが判明した。

訪問先いずれも古い伝承があり、興味深い研修であった。参加者の顔に満足感と快い疲労感が見て取れた。バスは近鉄橿原神宮駅に向かった。

4月度月例研修会

「京都・伏見お花見ハイキング」

- ・実施：4月6日（水）10：00～15：30
 - ・ルート：近鉄丹波橋駅—桓武天皇陵—伏見桃山城—御香宮神社—寺田屋—宇治川派流沿い—長建寺—月桂冠大倉記念館—近鉄桃山御陵前駅
 - ・参加者：19名
 - ・幹事：川井秀夫 青木幸子 寺田孝
- 4日雨天のため6日に順延。幸い朝から快晴。空気が雨で洗われたような爽やかな青空。
- ・丹波橋駅から15分程で「桓武天皇陵」。広大な森の中に静かにたたずむ規模の大きな御陵。桓武天皇は794年に平安京に遷都し、歴代天皇の中で10指に入ると云われる実績をあげた。
 - ・この御陵のほとんど隣に位置するのが「伏見桃山城」。城門を入ると広い公園の敷地に城郭を囲む満開の桜、桃などが朝日に輝いていた。



この「木幡山伏見城」は秀吉が隠居所として築城したが、秀吉没後家康が入城。関ヶ原の戦いのころ石田三成に攻められ焼失。その後家康の命により再建したが、1623年に廃城された。その本丸天守は二条城に、多くの建物は、淀城、福山城などに移築された。現在の城は、木幡山伏見城を模した模擬天守（コンクリート製）である。



桜の城郭がよく見渡せる一角に敷物をしいて花見の小宴。爽やかな微風が吹き桜、桃などの微薫の中、全員で乾杯。ビール、お酒、つまみが適当にあり落ち着いた和やかな花見となった。快適な雰囲気、ここでゆっくりしようという意見もあったが、予定通り12時半過ぎに次の「御香宮神社」に移動。

・「御香宮神社」の表門は伏見城大手門を移築したもので、どっしりとした豪壮な構え。家康造営の本殿とともに重要文化財。境内には名前の由来となった湧き水「御香水」があり、大きな紅しだれ桜が満開で見ごたえがあった。

この社は鳥羽伏見の戦いでは薩摩藩の屯所になったが、兵火を免れた。

・京阪電車「伏見桃山駅」の横から伏見大手筋商店街、竜馬通り商店街を通過して「寺田屋」へ。

「寺田屋」は伏見の船宿。薩摩藩の急進派と穏健派の死闘、ここを常宿としていた坂本龍馬が襲撃された現場として有名。建物内は当時の様子が再現・展示されている。半数以上の人が見学。

・「寺田屋」の前を流れるのが「宇治川派流」。秀吉の伏見城築城の建築資材を運ぶために作られた。現在は川に沿って桜並木が作られ、毎年4月第1日曜日桜まつりが開かれている。この川べりの桜並木道を30分程「長建寺」まで歩く。桜はまさに満開で、風情のある道であった。



・「長建寺」を経て「月桂冠大倉記念館」へ。酒造りの歴史と工程が展示されている。試飲なども楽しみながら休憩後ここで解散。

「近鉄桃山御陵前駅」から帰路につきましたが、爽やかな天候に恵まれ、処々の桜も超満開で格好のお花見ハイキングとなりました。ご参加の皆さま幹事の方々お疲れ様でした。（寺田 孝）

4月・自然教室チーム観察会報告 春の奈良公園 (個性豊かな桜の競演)

4月12日(火)、朝から天候に恵まれ、定刻の午前10時、近鉄奈良駅行基菩薩像前には自然教室メンバーの7名のみならず、当会会員9名に会員のお友達1名を含む17名が集合、奈良公園ならではの個性豊かな桜観察会が始まりました。

皆さん、「ソメイヨシノ」が散り始めると桜の季節はもう終わりと思われていませんか。否！奈良公園の桜の見ごろはこれからなのです。

会報4月号でも紹介しましたように、奈良では氷室神社のシダレザクラが先陣を切り私達に桜の季節到来を伝えてくれますが、その後ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ナラノココノエザクラ、サトザクラ、カスミザクラ、ナラノヤエザクラと開花時期を変え、礼儀正しく主役の座を譲って行きます。



そして今(私達が観察会を開いた4月12日前後)はナラノココノエザクラが主役となる時期なのです。

【ナラノココノエザクラ】 ナラノココノエザクラは一般の八重桜と同じくヤマザクラが重弁化した品種ですが、特徴はガク片が大小10枚あることです。昭和12年に天然記念物に指定された奈良を代表するナラノヤエザクラの開花は更に1~2週間ほど遅れますので、開花の時期で見分けが付きませんが、こちらのガク片は他の桜と同じ5枚です。奈良公園では、開花時期以外でも見分けが付くよう、ナラノココノエザクラには青いリボンが幹の金網に付けられています。また、別の目印として「九」の字が書かれたプラスチックの札



【桜の雪景色の中の奈良の鹿】

が付いている事も有ります。ナラノヤエザクラの方は白のリボンに「八」の札が目印です。皆様も探して見てください。

さて、そのナラノココノエザクラが散る頃の名物が、地面いっぱいに雪のように降り積もった桜の花びらを食む鹿の姿です。幻想的なその光景には心を奪われますが、桜と鹿の関係はそれだけでは有りません。奈良の樹木と言えば旺盛な鹿の食欲で、下の方の枝や葉は食べられてしまい足元のすっきりとしたものになってしまいます。所謂ディアラインと呼ばれるものですが、東大寺大仏殿北側にある二本のシダレザクラはそれによりおかつぱ頭の様な形になっています。今では誰が名付けたか「おかつ



ぱ桜」と言う名 【おかつぱ桜前での集合写真】前で親しまれています。タイミング良く観察日の翌日、毎日新聞の朝刊にも紹介されました。

他にもたくさんの楽しい自然との出会いがありました。

▽一の鳥居近く雄鹿のたむろする場所では参加者のお一人が鹿の菊座ゲット。



【鹿の角の菊座】

▽桜と同じバラ科のザイフリボクの凜とした白い花

▽チューイングガムがわりになるマツグミの実
▽優雅さを感じさせるシキミの花

▽東大寺回廊基壇東側では鹿の影響で矮小化した可憐な花が私達を迎えてくれました。:ハナイバナ、ヒメウズ、キランソウ(別名ジゴクノカマノフタ)、ハハコグサ、キュウリグサ等々です。

そして、観察会の最後には、年に2度しか開扉しないと言う勧進所内の公慶堂にて秘仏・重文の公慶上人座像を拝観。こうして、善男善女の奈良公園における観察会は幕を閉じました。

皆様たくさんのご参加有難うございました。

(辻本 信一)

桜満開!!! 佐保川桜祭り

第14回佐保川わいわい桜祭りは、4月2日(土)予定通り開催されました。丁度この日に合わせるかのように、奈良地方気象台が満開宣言。佐保川の両岸は多くの花見客で賑わい、水辺の楽校での演奏会、運動場で各種出し物、各種の食品バザーなど、多彩な催しがあり、例年になく盛り上がりました。

当会からは、今年で3回目の出店参加をしました。三種の食品バザー“唐揚げ”“チューロス”“玉茷蕪”、そして“ぶじかえる”“災いをさる”“ふくろう”“えんぴつくん”などの自然木クラフト、さらに“椎茸ホダ木”の販売と、多彩なジャンルでの協賛を行いました。食品バザーは開店と同時に、店の前には30人以上の列が途切れることなく続きました。中でも“唐揚げ”は人気商品で、約40kgの鶏肉を揚げるのに、足らなくなった油の買い付けにスーパーへ二度三度と仕入れに行く忙しさ。“チューロス”なども全て完売しました。



一方、クラフトでは、“ぶじかえる”“災いをさる”と名付けたストラップが好評で、

見本を見ながら手際よく製作に励み、最後に動く眼をくっつけて完成した時、どの子どもにも満面の笑み。「ヤッター」という声こそ出さないものの、達成感に満ち溢れた表情でした。でき上がった“ストラップ”を得意気にお父さんやお母さんに見せると、“良いのが出来たね”との親子間での会話が弾む光景をいくつも目の当たりにし、今後のイベントなどで、どのように取り組めば良いのか多くのヒントを得ました。

終わりにりましたが、総勢18名もの多くの会員の皆様方にご参加をいただき、ブースを訪れていただいた仲川奈良市長様初め市民の皆様方との交流、また当会のPRなどにご尽力いただきましたことにお礼を申し上げます。(鈴木末一)

鳥シリーズ 4月号 シジュウカラの会話 文法がある? 小田 久美子

先日、新聞やテレビで報じられたのでご存知の方も多いかと思いますが、総合研究大学院大学の鈴木俊貴研究員さんの、10年にわたるシジュウカラを観察した報告が大変話題になっています。

親鳥が「ジャー ジャー(蛇だ!)」と鳴くと、ヒナは中には危険だと巣から飛び出します。又「チカ チカ(カラスだ!)」と鳴くと、ヒナはじっとしている方が良いと考え巣の中に蹲って動きません。タカだと「スィー(タカだ!)」と鳴き声を変える。ヒナも親鳥の鳴き声を理解しているというのです。「ピーッピ(危険を知らせる)」「ヂヂヂヂ(仲間を呼ぶ)」を組み合わせ、「皆んなで敵を追い払おう!」と会話しているのだそうです。これを逆転させて「ヂヂヂヂ・ピーッピ」という声を聞かせても内容は通じないのです。求愛には「ツツピー」。威嚇には「シャー」。(ヂヂヂヂはエサを見つけた時仲間を呼ぶのにも使います)。

15程の鳴き声(単語)と175程の組み合わせ(文章)を持ち、単語だけではなく文法規則に従って使いこなし意味を解釈するのは、今のところ人間以外ではシジュウカラのみだというのです。

シジュウカラは14cmのスズメ大の小鳥で、小指の先程の脳なのに本当に驚きですね。



我が家の冬限定の餌台(素麺の箱)に来るシジュウカラは、私たちの姿を見ると近くの枝で「ヂヂヂヂ」と鳴いて待っています。早はヒマワリの種を啜って台の回りに脚をかけ、尾羽根を台につっぱり三点で支えて種を割っています。

やさしい病害虫講座 22**「ウバメガシの病害虫-1」**

木村 裕

生垣の樹木で最もポピュラーなウバメガシについて病害虫を紹介します。

【クロケシツブチョッキリ】

新芽が開き始めると、まず真っ先にやってくる害虫です。新芽の先端が萎れたり、黒くなって枯れたりするのが特徴で、決して霜にあたって枯れたものではありません。

長さ3
ミリ前後
の灰色の
甲虫で、
頭の先が
象の鼻の
ように前
に長く突



き出しています。その先端部に口があり、柔らかい新芽にかぶりつきます。そのため、そこから先の新芽の部分は萎れて枯れてしまいます。

1匹の虫が新芽をつぎから次へと食い散らかしますので被害が増えます。人の気配を感じると手足を縮めて落下する習性がありますので、なかなか姿が見られません。まず被害部の下に手を広げて受ける体制をとり、枯れた芽に手を触れると虫はぼろりと落ちてきます。

**【マイマイガ】**

ツツジの項で紹介しましたように5月の連休頃から発生します。背中に黄色の斑紋をもった黒い毛虫で葉をかじります。小さい頃は食べる量も少

ないので発生に気づくのが遅れ勝ちになります。

成虫はモンシロチョウよりも大きな蛾で、前年の夏頃に太い幹や近くの人家の壁の上に数百個の卵を一塊にして産みつけます。その卵が4～5月頃にふ化し、幼虫の毛虫はその近くの葉に取り付きますので、垣根全体に発生するのではなく、ある部分に集中して姿が見られます。

1ヶ月もすると私たちの指くらいの大きさになり、青色や赤色、黄色などの毛や斑紋で着飾った美人になります。この頃になるともりもり葉を食べますので垣根が剥げ坊主になります。見つけしだいピンセットか割り箸で捕らえて処分してください。毛虫の毒はそれほど強くはありませんが、触らないほうが安全です。

**【オオトビモンエダシャク】**

5～6月、暗褐色の大型の毛虫が数十匹、枝の一部に群がって葉を齧ります。そのためあつと言う間に葉が食い尽くされてしまいます。

小さい頃は赤褐色ですが、成長するにつれて黒くなってゆきます。毛虫ほど長い毛はありませんが短い毛がいっぱいあります。この毛には毒はありませんので、手で捕まえて処分してください。虫が怖い人は枝ごと切り取るのも一つの方法です。



うつうつと泥鰌の欠伸目借り時

あくび

羽尻 嵩

「目借り時」は蛙の表情からでた俳句用語。春の季語。ユーモラスな句。泥鰌は初夏から動き出す。里山に大量養殖が成功するか、お楽しみ。

あらこだ

くろ

荒小田の瑠璃唐草の畔飾り

古川 祐司

第五地区。「唐草」はウマコヤシの別名。「畔」は「畦」と同意語。この季節、春草の繁茂に手を焼く。肥沃のちにはもう暫く。

碑に偲ぶ磐余の池は春野なり

古川 祐司

歴史3月例会。磐余の道を歩く。古代、宮跡が多く大津皇子の追悼の碑がある。今は池の痕跡もなくロマンは追憶の彼方へ。

いわれ

さくら愛でかんばせ熱り里山に

八木 順一

桜のシンボルツリーが花盛り。作者は花影に坐してうつとり。お顔までさくら色。日焼けならぬさくら焼けですかな・・・

ほて

村はずれ土筆坊やの丈伸びる

八木 順一

季節は足早に初夏を迎える。路傍のつくしも背高ノツボ。人間様も幼児の成長に目を見張る。私なんぞ背が縮まるお年・・・

つくし

お水取り良弁杉も火の粉浴び

小山喜与男

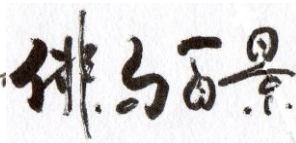
鈴木さん肝入りの修二会見学でしょうか。籠松明は圧巻。良弁杉もさぞ熱かろうに。国家安泰の祭祀とあらば我慢、我慢。

ホーホケキヨわたしは此処よ藪の中

坂東 久平

鶯をまじかに視野に捉える機会は稀である。この句には存問の味がある。鬼ごっここの鬼が目隠しされてあしらわれている様だ。

監修 川井秀夫



薬に帽子を被せひと休み

ひこばえ

かぶ

青木 幸子

着想が良い。樹木のひこばえは帽子掛けにもつてこい。茶目つ気が覗く。お花見のつれづれの一句でしょうか。帽子を忘れ無いように。

みこ

春や磐余皇子のひ霊の安かれと

青木 幸子

大津の皇子の悲劇を思う。女性らしい繊細な思いが伝わる。古代探訪には叙情・郷愁・ロマンが溢れる。歴女さん頑張れ。

若草野踏むな踏むなと声がする

鈴木 末一

「若草野」は春の季語。春の草に労りをもつ作者。草は憎まれ役だが野草に恩恵をうけること多し。春草に優しさを。

うぐいすのわが世とばかり来し里に

鈴木 末一

この鳥の鳴き声を聞けばウグイス。初音、谷渡り、老鶯など意外に鳴き声に変化する。春は鶯、我が世の時を楽しんでチョーダイ。

せ

弾ける脊ナのかの子らの春

西谷 範子

一年生の初登校の情景。ピンピンのランドセルが踊ってる。戦中派の私は古鞆だった様な記憶がある。今の子は平和で幸せ。

咲いて知るこれほどまでに山桜

西谷 範子

日頃、桜の木に無関心だが、花を付けるとこんな所にと驚く。作者の様な植物通の方でさえ感慨がある様だ。視点を変えて歩くことにしよう。

いっすい

花時の一炊の夢伏見城

川井 秀夫

例研4月例会。伏見城の桜が見頃、秀吉の栄華の象徴の様に咲き誇る。論語を引用して「一炊の夢」。天下の夢も覚めてみると飯が炊きあがるほどの短い時間であったと言う喩え。



春爛漫

谷川萬太郎

俄かに訪れた春の嵐に戸惑い覚え
散りゆく桜の花弁の哀れみの涙雨か
一夜明けうらぶれた心癒す朝の陽光
緑眩しき春の山並み冴え渡る青き空よ

健気な道端の草花の意地らしき可愛さに
小さな羽で惜しみなく手を振るシジミ蝶
春の静けさに酔い乍ら忍び音漏らす鶯の声
今日も又歩き馴れたこの道に想い出重ねて

心地良い5月の風の優しさに誘われて
川辺の畔歩けばタンポポが微笑み返す
翼ひろげた白鷺が川面の上を低く飛ぶ
揺れる風波煌めく星屑の光水辺に輝きて



なうやま茶論

「嘆きの筍」



竹本 雅昭

太助：やあ君も見付かったのか。

美華：ええ枯葉で隠れてたんだけど残念ですわ。

太助：仕方ないね。多勢の足で探られたり、

凸を見付けられてはどうにもこうにもだ。

美華：私は、この竹林でスマートで美しく一番
高くなりたいと思ってましたのに。

太助：俺は見ての通り、すごく太いだろ。

ここで一番立派な孟宗竹になって、里山
一と畏敬の念で見て貰いたかったのさ。

美華：もう籠に入れられたからには一刻も早く
天麩羅、木の芽和え、そして、筍ごはん
で美味しいと人々に満足してもらいたい
ですわ。ただ私を傷物にした人には、
きっとえぐみをたっぷりね

太助：森羅万象、何事も始めあれば終り
ありで、早いか遅いかだけで今が
一番良しと締めましようかい。

美華：流石ね、人々もこれから竹林にも
力を入れて管理してくださるそう
だし、多くの良質な筍が旬を賑わ
してくれるでしょうね。

太助：我々は親としての働きはでき
なかったけれど、大いに期待するね。
鳥の散らかしたマヨネーズチューブ
も片付いて、住環境も良くなれば
嬉しいことです。

人々：お陰で元気に活動できます。
ごちそうさま。

～終～



皆様方からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品

パッチワーク・切り絵など



▲辻本愛子「染め花」(アートフラワー)



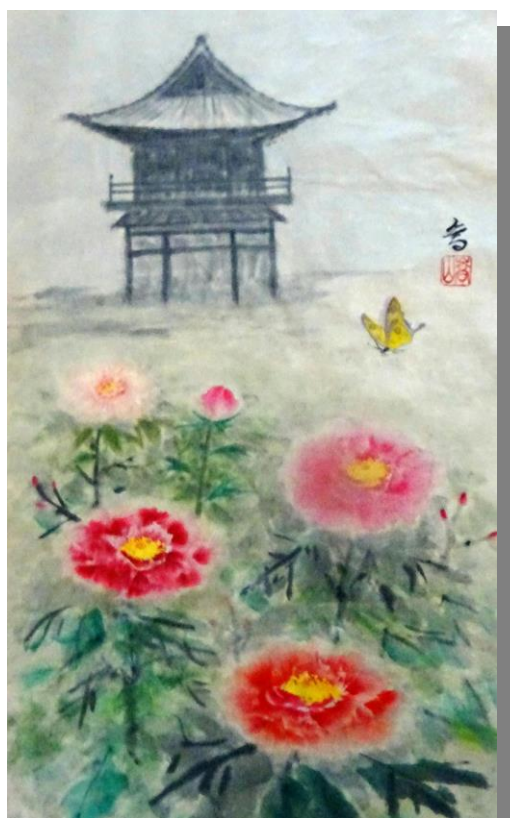
▲有元康人「新玉ねぎ」(オイルパステル・F4)



◀小島武雄

「猫巻」

(たたら・白土)



▲羽尻嵩「牡丹咲く寺」(墨彩画)



▲八木順一「高野川の桜」(水彩画)

仲間入りしました

新入会員紹介



千載 輝重

3月24日は盛大な歓迎をいただきありがとうございました。バーベキュー、焼きそば、おでん、甘酒、それに打ち立ての蕎麦に味噌汁とお漬物、すべてがおいしくて、食べ過ぎました。

当会は知人を通じて予てから存じ上げておりましたが、芦生の森への研修に外部参加させていただき、蕎麦打ちでも顔見知りの方もおられ、今後ますます親しくさせていただければ幸甚です。自然や環境についての知識には全く自信がありませんが、焦らず少しずつ馴染めればと思っています。

趣味は、25年前から続けている我流の週一テニス、3年前からたまに爪弾くウクレレ、1年半前から某氏に引っ張られて加わった混声合唱、その他、蕎麦打ち、ハイキングなど、すべてが中途半端ですが適当にこなしますので、同好の方はお誘いください。

西出 勉

私が初めて皆さま方々とお会いさせていただいたのは、3月10日朝の集会が始まり、新入会員紹介のさなか、ギリギリにとびこみ間に合った時です。そのあと私は、畝作り、炊き出しをいただき昼食、パトロール、茶話会、解散と少しゆったりしたひんなかを過ごさせていただきました。

この会を築きあげてこられたご先輩方々の考え方や思い入れなどの一端を感じ、1日も早く皆さま方々と交わっていききたい思いです。

皆さま方、今後もよろしくお願い申し上げます。

「平城山に想う」

新堀 裕子

2015年の12月、ムササビを観察するため東大寺へ行きました。何十年ぶりに訪れた奈良の寺や公園は、こんなに広がったのかとまず驚きました。ゆったりと時間が流れているように感じられ、その雰囲気になが癒されました。

シニア大学では、自然に関するさまざまな事を勉強しました。卒業後は、実際自然の中に身を置き、自然環境保全の活動がしたいと思い、「奈良・

人と自然の会」に参加させていただく事にしました。

椎茸をもぎ取るのも初めて、水菜を採ったり、菜の花の花芽を摘むのも初めてでした。採れたての野菜の瑞々しさ、美味しさは格別でした。里山ハイキングでは、ショウジョウバカマ、クロモジ、ミツバツツジ、ミツマタなどを観察、果樹を含むさまざまな苗木を丹精込めて育てておられる様子も見学しました。半日の農作業で腰が痛くなる情けない私ですが、皆様のように作物を育てる喜びを味わえるようにになりたいと思っています。宜しくお願いします。

「楽しいな里山づくり」

徳地 恵男

ならやまプロジェクトとの出会いは、去年の5月の初めての教育実習でした。近くを通るならやま大通りは、毎日の通勤路でしたが、竹藪の向こうにこんな素敵な里山が広がっているとは驚きでした。長く放置され人も入ることのできないような所を、よくここまでできたなと感動しています。

私もこの中の一員に入らせていただくことができ、自然の中で活動できることを楽しみにしています。この会にはたくさんの仲間がおられます。また活動も多岐にわたっています。この会のモットーである「元気に、楽しく、無理をせず」長続きできるよう皆さんと一緒に活動したいです。私なりに頑張れることを見つけていきたいと思っています。

「すばらしい里山」

徳地 三知子

この2月、主人に初めて連れて行ってもらったその場所は、うっそうと茂った雑木林だと思っていました。中に入ってみた私は、そこが明るく開けた空間で、きちんと耕された畑や田んぼ、あちこちにきれいに花を咲かせる花壇を見てびっくりしてしまいました。あまりの美しい景色に感激し、私もこんなところで少しでも一緒に活動させていただけたらいいなと思いました。

花や野菜を育てる経験が浅く、力になるかどうかかわかりません。一緒に活動しながら学ばせていただけたらうれしいです。この4月から同居の孫が小学校に入学しました。最初はなかなか参加できにくいのですが、時間を見つけて一緒に来たいと思います。どうぞよろしくお願いします。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

5月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
6月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

◆連絡先：八木 順一



里山 Gr

5/5 協働作業の日

林野庁関連里山整備／薪割り

12

林野庁関連里山整備／薪割り

19

椎茸櫓木本伏せ用材料準備／薪割り

26

椎茸櫓木本伏せ用材料準備

林野庁関連里山整備／薪割り



エコファーム Gr

5/5 協働作業の日

茄子、唐辛子、ピーマン、パプリカ、トマト
カボチャ植え付け 苗代管理

12

サツマイモ植え付け 落花生播種

ゴーヤ、ズッキーニ、オクラ植え付け

苗代管理

19

枝豆植え付け（播種）

水路整備（排水口、取水口） 苗代管理

26

茄子、唐辛子、トマト支柱立て

エンドウ、ニンニク、タマネギ収穫 苗代管理

景観 Gr

5/5

協働作業の日

BC 周辺の草刈／池の整備

菜の花撤去、畑作り、ホオズキ移植

草刈り、枝払い

12

彩の森草刈／西池水生生物調査

夏花種まき、草取り、黄菖蒲園整備

丸太階段の補修、作り替え

19

彩の森草刈／池の整備

山野草園柵作り

枯れ木などの安全確認パトロール

26

第5地区の草刈／西池水生生物調査

皇帝ダリア園草取り、柵作り

希少植物の保護





行事案内 part 1

5 月月例研修会 新緑の奈良公園 自然観察会



奈良公園では、桜の季節が過ぎると藤の季節がやって来ます。古来より藤原氏と縁の深い春日大社や興福寺の境内では藤が大切に扱われこの季節、あちこちで競うように咲き誇る藤の花が楽しめます。その代表格は何と言っても花序（花の房）が毎年 1m60～70cm にもなろうかという春日大社本殿の「砂ずりの藤」。



その他にも、
興福寺南円堂の

【砂ずりの藤】

「左近の藤」、若宮神社本殿北側の「八房藤」、春日大社慶賀門前の白藤等、銘木がいっぱいです。

更に今回は、奈良公園と言えば天然記念物の「奈良の鹿」。今回は、知っている様であり知られていない鹿の生態も観察します。

ご存知の「ナンキンハゼ」は鹿が食べない不嗜好植物として良く知られていますが、それ以外にも結構たくさんの植物が含まれます。答えを知りたい人は、是非、奈良公園にお出掛け下さい。

答えは、この時期春日大社の参道や飛火野に鹿さんなんてヘッチャラと言う顔で生えている植物達そのものです。「アセビ」、「イラクサ」、「キランソウ」、「ムラサキサギゴケ」、意外と「カタバミ」などもほとんど食べません。

今回は、そんななかで他ではあまり見られない「ウラシマソウ」の群生を訪ねてみたいと思います。新緑の奈良公園みんなで楽しみましょう！

1. 日 時 5 月 11 日 (水)
午前 10 時～午後 3 時 (予定)
2. 集 合 近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持ち物 弁当、お飲み物、(あれば) ルーペ
4. 担 当 自然教室チーム (辻本信一)

第 15 回通常総会等のご案内

第 15 回通常総会等を下記の通り開催いたしますので、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

感謝状の贈呈

本総会に先立ちまして、10 年間会員継続をしていただき、当会活動にご尽力賜りました方々に感謝状を贈呈する機会を設けております。

これまでは新春講演会の開催時に実施させて頂いておりましたが、前年度より総会時に実施させて頂いております。

1. 日 時 5 月 21 日 (土) 14 時 30 分
2. 場 所 奈良市三条本町 13 番 1 号
奈良市ボランティアインフォメーションセンター
1 階 会議室 (1-1、1-2、1-5)
3. 感謝状をお受けになられます方々
篠原 章二様 竹本 雅昭様
寺田 孝様 永井 幸次様 (4 名・50 音順)

総会

1. 日 時 5 月 21 日 (土) 15 時
2. 場 所 上記の奈良市ボランティアインフォメーションセンター
3. 議 題
第 1 号議案 第 15 期事業報告および収支報告
第 2 号議案 第 16 期事業計画(案)、予算(案)
第 3 号議案 理念制定および会則改定の件
第 4 号議案 任期満了に伴う新役員選任の件

懇親会

通常総会の終了後、受賞の皆さんをお祝いするとともに、新年度のスタートにあたり、懇親会を開催しますので是非ご参加ください。

1. 日 時 5 月 21 日 (土) 17～19 時
2. 場 所 「座・和民」奈良三条通り店
奈良市三条町 491-1 (0742-20-6561)
3. 会 費 3,000 円
4. 申込締切日 5 月 14 日 (土)

担当：辻本

青木

*議案書は会報5月号に同封します。総会の出欠及び懇親会への参加の可否について、同封のハガキにより 5 月 14 日(土)までにご連絡ください。



行事案内 part 2

歴史文化クラブ特別企画

「丹後半島の古代史探訪」のご案内

日本海沿岸域は古より朝鮮半島や中国との文物交流の表玄関でした。弥生時代、丹後半島には竹野川流域を拠点とする有力な勢力があり、当時最も重要だった鉄の輸入路を支配し、交易により力を蓄えました。4世紀後半から5世紀初頭に最盛期を迎え、大王クラスの前方後円墳が出現します。その出土品から、ヤマト王権とアジア大陸とを結ぶ有力な「丹後王国」があったとされています。

ヤマト王権は、海外交流の窓口を確保し、出雲征服の手掛かりとするため、婚姻・祭祀工作により懐柔を図ります。日本書紀には、竹野川流域の大県主湯碁理の娘、竹野媛が9代開化天皇（崇神天皇の父）の后となり、丹波道主王の娘の日葉酢媛は垂仁天皇の皇后となって12代景行天皇を産んだと記されています。

丹後一之宮「籠神社」は、天照大神がここから伊勢神宮へと遷られたとする「元伊勢」伝承があり、さらに丹後の祖神である酒造りと豊穰の神「豊受大神」も伊勢神宮の外宮へと遷されます（雄略紀）。

丹後には、ヤマト王権から見た歴史のほかに固有の地域史や豊かな伝承があり、また、大陸交流の十字路の丹後には日本海文化という視点や、渡来人の足跡など歴史フアンの興味をそそります。

丹後に伝わる七姫伝説などの美女物語にもロマンの翼を広げて楽しみたいと思います。どうぞご期待ください

《実施要領》

日時：5月23日（月）～24日（火）

参加料：25,000円（一泊4食）

募集人数：28名（マイクロバス利用）

（定員に達し次第締め切ります）

申込先：歴史クラブ事務局 古川祐司

6月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

6月 2日 協働作業の日

6月23日 春の感謝祭（カレーライス）

*月例研修会（歴史文化クラブ共催）

6月14日（火）

矢田丘陵の歴史散策

*自然教室

6月 8日（水）夏のならやま自然観察会

6月22日（水）佐保台小：放課後教室



奈良学クイズ

【問1】奈良市内に、ある方が私財を投じて架橋された二つの橋があります。この方のお名前と二つの橋の名称をお答えください。

【問2】ある著名なイラストレーターの方が、奈良市内の寺院所蔵の十一面観音菩薩立像を描かれたポスターがあります。「凛としたお顔、美しい



腰のライン、衣の素晴らしい文様ははっきりと見えます。この仏像は昭和28年まで秘仏であったために大変美しい状態で残されていると評

判です。一見の価値あり!」。この仏像が安置されている寺院名をお答えください。

『応募要領』[締切]：5月3日

[記念品] 自然木作品

【4月号正解】

（問1）天武天皇

（問2）源頼親 （問3）佐保山眉間寺

平成28年・4月度幹事会報告

日時: 平成28年4月5日(火)17時～19時30分

場所: 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者: 顧問・幹事20名

議事:

I.会長挨拶(下記報告並びに説明があった。)

①林野庁関係 H27 年度報告と H28 年度申請

②経団連よりの申請許可

③総会を控え来年度の予算確保について

II.会計・事務局報告(下記報告があった。)

1. 事務局報告: ①会員数 152 名(1名増)

2. 会計報告: 会計諸表に基づき3月度収支報告

III.活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月スケジュール、当月スケジュール確認

2. ならやまプロジェクト関係: ならやま委員長、各グループリーダーより報告並びに計画の説明
新入会員に対しては各作業への案内誘導を実施

3. 活動報告と予告:

月例研修会、自然教室、歴文クラブより報告並びに予告、担当幹事より新入会員歓迎会、佐保川わいわい祭り実施報告があった。

4. GGプロジェクト: 県発行イベントガイドブックに掲載申請。奈良県・市に後援名義使用申請。

5. 林野庁交付金内容の説明が事務局よりあった。

IV.広報関係: ネイチャーなら5月号編集内容確認

V.企画会議

「理念」並びに「会則」改定: 修正案が出され了解された。総会にて審議。

記念事業の推進: キャッチフレーズ23作、ロゴマーク3点の応募があった。冠付き行事においても各種案を提出頂いている。

VI.ユートピア構想: 川井顧問よりならやまの将来像について提案があり意見交換を行った。

VII.通常総会: 事務局より実施要項の説明があった。総会資料は最終案をまとめ次回幹事会で確定する。

VIII.その他: 昼の豚汁に代わる汁ものの提供検討。次回幹事会は4月19日(火)午後5時、新旧役員合同で中部公民館にて開催予定。

以上

◇ 申し合わせ ◇

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 花粉症

4月の中旬から5月の上旬に掛けてが、私の花粉症のピークである。外出を控えひたすら時の過ぎるのを待っているが、この素晴らしい季節に実に勿体ない事である。

アメリカンフットボールのコーチの言葉を紹介する。「Do your own job」: 「自分の仕事を全うする事に専念せよ」。私もこれに近い生き方をしたいと考えており、「その一瞬に全力で立ち向かう」を信条としている。勿論、大局観を失ってはいけないのだが、兎に角その場面で最大の努力をするよう頑張っている。

5月総会で幹事の改選があり、今年は大幅に幹事が入れ替わる予定である。新しく幹事に就任される方は大変ご苦労さまですが、自分の特徴を発揮して力一杯の活躍していただきたい。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第172号

発行: 奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表: 坂東久平